

三才児のある日雑感



富 樫 純 子

三才児と過したこの一年間をふりかえると、まず入園当初のあのあどけなかつた一人ひとりの幼児たちのめざましい進歩に驚くと共に、三才児なりに楽しく、充実した幼稚園生活を過すことができたであろうかということが反省される。

これから一年のうちの平凡なる日の状態を中心として記してゆきたいと思うが、この一日は特定の日でなく、一年なり一学期なり一週間の大きな流れの中の一日本である。また動いている幼稚園の幼児の生活の一コマで、広い経験活動の一端である。

三才児の場合、あそびが最も重視されるもので、友だちと遊べるのが、大切なねらいの一つであるので、自由あそびの部分に焦点をあわせて考えてゆきたい。この組は十五名で男児八名、女児七名で編成されている。

○六月中頃のころ

この頃は、幼稚園に安定感をもち、よく遊ぶようになってきたが、友だちといっしょに遊ぶようになったために、けんかが多い時期である。

かわりばんこにするとか、役割をかわりあって遊ぶという意味が、だんだんわかってきている幼児もいるが、まだ遊具の取りあい、順番を守らない、友だちに手を出してしまうことなどがある。教師のそばでなくては遊べない幼児も、また遊びのきっかけをつけてあげなくては、遊びに入れない幼児もいる。

教師と共にいろいろな遊びをしたりして、経験活動がだんだんに広くなる頃であり、遊具がきっかけで友だちと遊ぶこともあるのである。環境を整えることも大切である。

幼児たちは九時頃登園してきて、自由に遊ぶが、ある一日の九時三十分頃のあそびの状態を記録から見てみよう。

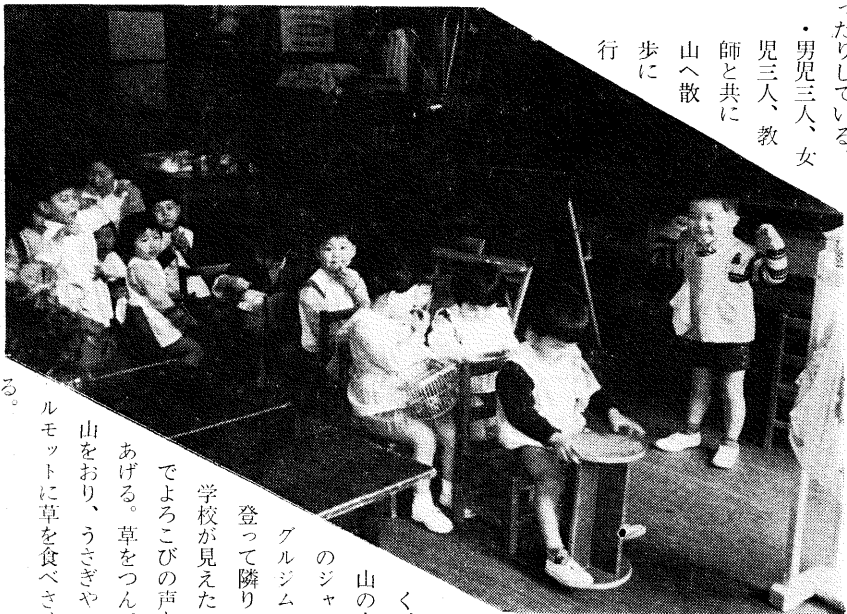
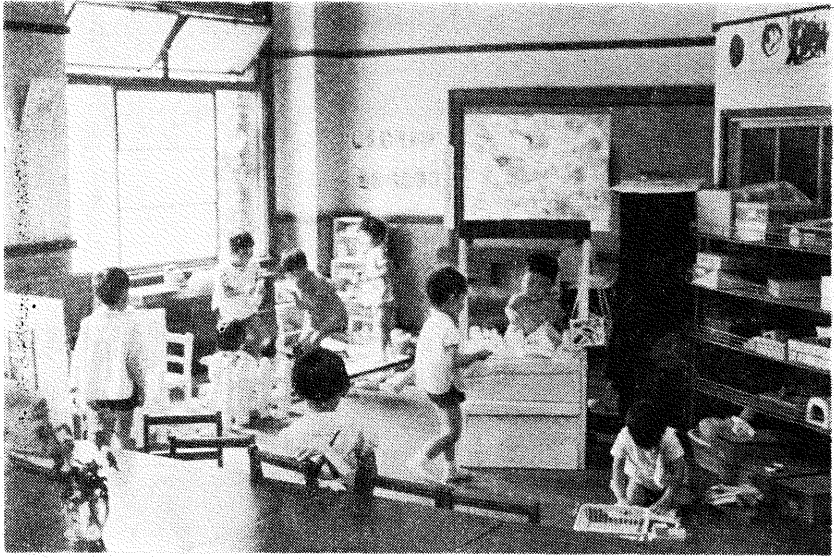
室内あそび

・男児三人、プラスチックの線路をつなげて汽車あそびをしている。そのうち鉄橋を積木で作りなどして汽車を走らせている。

・女児三人、ままごとでごちそうをつくったり人形をだいたり、人形に食べさせたりなどしている。

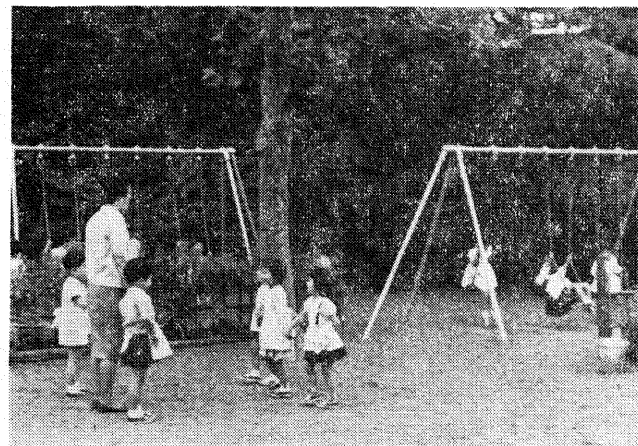
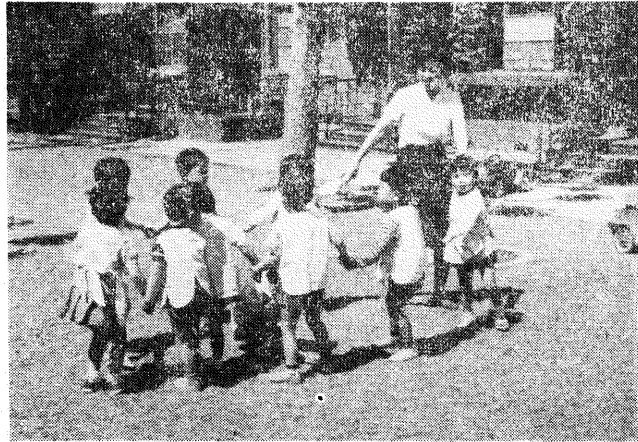
戸外あそび

・女児二人、砂場でおだんごをつくったりアイスクリームをつく



たりしている。
 ・男児三人、女
 児三人、教
 師と共に
 山へ散
 歩に
 行

く、
 山の上
 のジャン
 グルジムに
 登って隣の
 学校が見えたの
 でよろこびの声を
 あげる。草をつんで
 山をおり、うさぎやモ
 ルモットに草を食べさせ
 る。



・山に行つたグループは、帰つてきから自動車、フランコ、砂場
 場にかけて遊ぶ。

最近フランコが一人でこげるようになった五、六人がよくのつて
 いる。この組で一番平令の幼い丁夫が、自動車にやっとかわりあつ
 て乗れるようになったので、ほめて自信を持たせるようにする。

十時頃にままごとをしていた女児が昨日つくつた風車で遊びまし
 うというので、教師と共に七、八人で風車をまわしてかけっこし
 たりして遊ぶ。この間にも砂場で遊んでいた女児が後から入つた友
 だちに道具をかしてあげないのでその指導をしたり、男児二人で道
 具のとりあいからけんかがおこる。一方の男児が泣いて要求を通せ

うとするので、その仲裁をしたりもする。S子は、まだ教師が遊びのグループからぬけるといっても遊びをやめてしまうので、これからの長い指導が必要である。

十時四十五分頃から、ゆうき室にいてリズムをして、学級としてのまとまった時を持つ。十一時二十分頃から、おべんとうを頂く。

午後はおべんとうがすんだ幼児から自由あそびに入り、砂場で山をつくったり、汽車を走らせたりごちそうつくったり、自動車ごっこをしたりしている。教師と共に花いちもんめをして遊ぶグループもある。

一時のレコードの音楽と共に、みんなが並んでハトホッホ体操をし、園庭を行進して、遊具をかたづけ、一時二〇分お帰りになる。

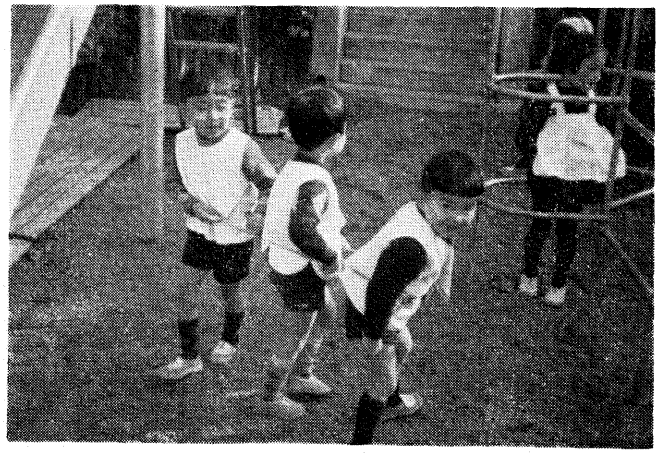
○十一月上旬のころ

秋晴れのもと戸外遊びの盛な毎日である。好きな遊びでは小さいグループでよく遊べるようになった。好きな友だちが砂場をする

11 月 頃



その仲よしの幼児が砂場の仲間に入るようになってきている。近頃は、鉄棒が盛で毎日のように興味をもって遊んでいる。興味のある遊びは上達も早く、教師や友だちにできるようになった動作を得意そうにしてみせる。教師がちょっと手をかしたり、助言したり、ほめたりして、女児全員参加してある時間遊ぶ。





この時期になると、幼児たちの自然の遊びを観察して、いろいろな遊具を使ったり、いろいろな遊びの経験をもたすように誘導することが必要になってくる。

とくに運動具を使つての遊びなどは個人差のはげしいものである

から、機会をみての誘導やはげましが大切である。

今日はブランコにあまりのらない男児三人を教師がさそい興味をもつように仕向けて遊ぶ。これからも何回かこういう機会を持たなくてはと思う。

今まで元気だったU子が、この二、三日登園してきてしばらく教師の側から離れないし、ちよつとしたことにも泣いて不安定の状態を示すので、今日は、U子の好きなおえかきにさそう。マジックで色模造紙にえをかく。えをかきはじめると、U子もにこにこしている。三回ぐらい交たいして、マジックで好きなえをかいた。

あそびにもグループの交流が少なくてできてきて、今日はままごとのグループの幼児が、うりやさん（やさしい、果物、本やさん）に買いにいたり、自分の家に届けてもらったり、ごちそうに呼んだりして遊んでいた。教師は、楽しくよく遊んでいる幼児たちを認めて声をかけたり、ほめたりすること

も大切である。

午後、七、八人で教師と共に鬼ごっこをして遊んだが、鬼になって不安でやめてしまいそうな男児をばげまして、遊んだりしてだんだんに遊びの簡単な規則を理解させるように努めたりもした。

○二月下旬のころ

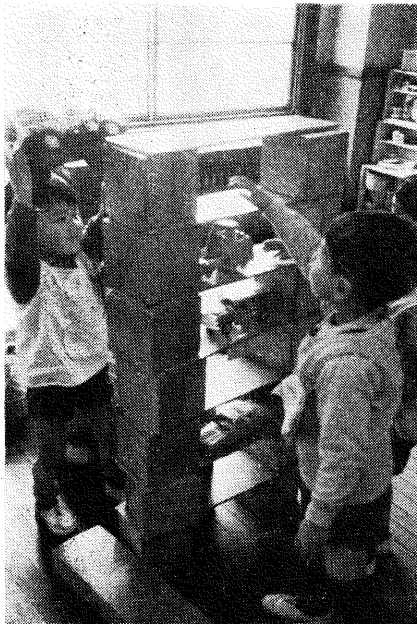
「がらり」と元気に保育室の戸があくと同時に、二、三人の幼児が声を揃えて「おはようございます」と言いながらとびこむようにして部屋に入ってくる。早速、おべんとうや牛乳のあたためてもらうものを所定の場所におき、バスケットを棚におくと、手を洗いうがいをする。

すぐに遊具の方にゆく幼児が多い。この頃は幼稚園にきたら、なにをして遊ぶかという意識をはっきりもってくるし、友だちを待って、いっしょに遊ぶとする。続いて次々と幼児が登園してくる。

「高速道路ごっこするものこの指とまれ」の男児の声にさざわわって、五、六人が集まり、ここをこうしてと相談して、早速、床上積木を使って駐車場や高速道路をつくりはじめる。

ここにはトネルがあった方がよいということになりトネルもできる。駐車場に自動車置かれる。一階、二階、三階と数えている幼児もいるし、一階は誰の自動車と相談してわけている。上部階にはエレベーターで自動車を上げてゆく。

2 月 頃

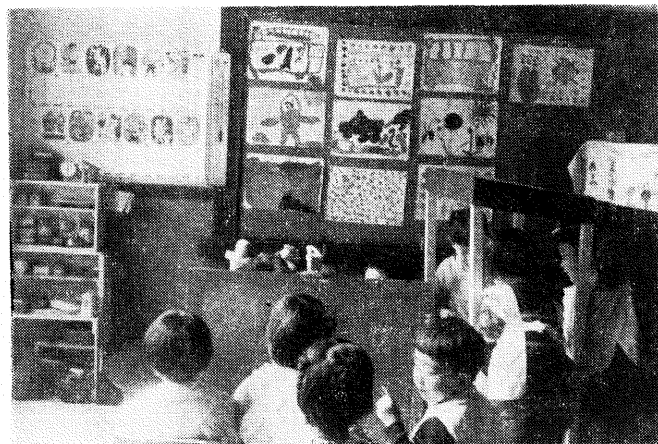
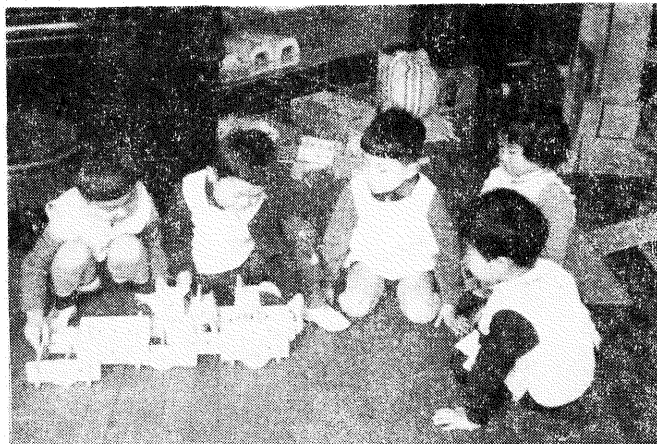




道路ができないうちに自動車を走らせ、道路づくりがききだと注意をうけている幼児もいる。

この高速道路あそびは室内遊びの盛な、近頃よく遊ばれている遊びの一つで、はじめのうちは自動車のための道路づくりだけのきわめて簡単なものであったのが、高速道路にはトンネルがあったというので加えられたり、すぐ近くにモノレールが考えられる日もあり、また変った車庫や駐車場や飛行場ができる日もあり、トンネルの中に照明をついたりしていろいろ工夫している。

参加する幼児も四、五人から、多いときには級の全員が参加した



ときもあり、遊びの継続時間も長く、いろいろ発展して楽しく遊んでいる。

教師は幼児がおもしろい遊びを工夫したときなどは機会をのがさず共鳴したり、ほめたり、助言したりすることや困っているときは相談相手になるなどの配慮も必要である。

昨日のつづきのくみ板やくみ木を使つての自動車つくり余念のない男児もいる。

同じころ、引き出しから女児が帳面を出してきて、えをかきはじめた。二、三人の女児と二人の男児もえをかく。さく曲でなくいろいろなものが描けるようになったので、興味も深まりよくかいてい



る。パズルをしている女兒もいる。えをかき終った四人で忍者ごっこをはじめ。隊長月光、三か月、輪月と役割をはっきりわけて遊んでいる。テレビの影響でこの忍者部隊月光とか、こちらはM一号、応答せよとかいろいろ再現して遊んでいる。ときどき教師も仲間に入れてもらって遊んでいるが、なかなかついてゆけず困ってしまうこともある。

パズルをしていた女兒がリーダーになりまごと遊びが始まる。高速道路の仲間の男児がお父さんで昼間は仕事に行き、夜はまごとの家に帰ったりしている。ままごともはっきり役割をきめて遊んでいる。ままごとの子どもたちが学校にでかけ、学校から遠足にかけたなりなどして、グループ間の交流も盛である。

なんとなく遊びに入りにくい子も、今日は元気にままごと遊びで活躍している。

十一時近くなり、あそびに発展性がないようすがみえてきたので、お片付けをして、ピアノの側に集り、歌をうたったり、ハンドカスタを使って楽器あそびをする。

十一時三十分頃からおべんとう。午後は自由あそび。
一時より体操。一時二十分お帰りの。

× × ×

この組も四月からはいよいよ四才児で新しい友だちも入り、もっと多ぜいの友だちと遊ぶわけであるので、幼児と共に教師も期待をもって新学期を迎えたいと思っている。